反歌

山越乃	風乎時自見	寐夜不落	家在妹乎	懸而小竹櫃	万葉集卷一 6 軍王
山越の	風を時じみ	寐る夜落ちず	家にある妹を	懸けて偲ひつ	
やまこしの	かぜをとじじみ	ぬるよおちず	いへにあるいもを	かけてしのひつ	
山を越えた	風が絶えず吹き	夜はいつも	家で待つ妻を	偲んでいる	